

重機を駆使して開墾作業



住民一人ひとりができることを！



# 限界集落から元気集落へ！ 貝口ビアパークプロジェクト



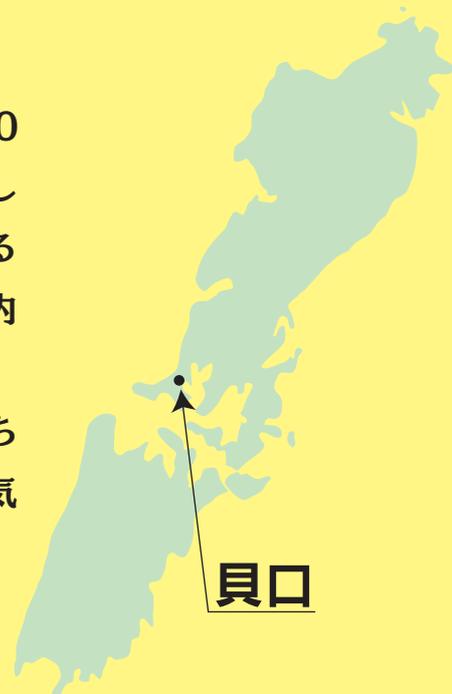
初収穫のそばの脱穀



子どもたちの声が響く畑

対馬の中央、浅茅湾の入り口に近い、豊玉町貝口地区。現在17世帯28人がここで暮らしています。以前は、100人近い住民が海と山の恵みを受けて自給自足の暮らしをしていた貝口地区も、65歳以上の住民が半数以上を占める「限界集落」となり、地域の活力が失われゆく中、地域内での人と人とのつながりも次第に弱くなっています。

その中で、地域のために何かをしたいと貝口地区で立ち上がった人たちがいます。日々を楽しみながら地域を元気にしようとして取り組まれている活動を紹介します。



貝口

# 地域のためにやってみようや！



## お話を伺った昭和会のメンバー

左から、会長の梅野誠司さん、国分道夫さん、田中照康さん  
残りのメンバーは仕事の関係で休日しか参加できないため、  
3人が日ごろからパークの管理を行っている。

豊玉町貝口地区では、各世代で住民が集まって様々な活動を行ってききましたが、人口減少により活動の維持が難しくなっていました。そこで「何とか、住民が集まる場を残したい」との思いから、数年前「昭和会」というグループを結成しました。現在は、50代から70代の5人の男性が集まり、月に一度、酒を酌み交わしながら、毎回持ち寄った色々な話を肴に交流を深めています。

その5人を中心に、地域全体で昨年からは取り組んでいるのが「貝口ピアパークプロジェクト」。対馬海峡を見渡す入江に位置する休耕地を活動拠点として、高齢者が多いなりに、自分たちで生きがいをつくり出して100歳になっても元気に暮らせる地域を目指して活動を続けています。

## 活動開始のキーマン田中照康さんに聞いてみました

「広報つしま」平成30年10月号の特集で紹介された、巖原町久田地区で取り組んでいる「アグリパーク」の記事を見て事業報告会に出席しました。遊休農地を活用し、農業を通じて地域を活性化するという取り組みを知り、海や山に恵まれている貝口地区でもやれるんじゃないかと思いました。そこで、昭和会の仲間に相談しましたが、残念ながら最初は仲間も乗り気ではなかったですね。

しかし、地域のために何かやりたいという思いと「汗をかいた後の1杯は最高よ！」という誘い文句で仲間も私の話に乗ってくれました。その後、住民座談会を開催して、地域の人たちと意見を交わし、困った時だからこそ、地域の結束で、楽しく、仲良く、そして元気に過ごしていきたいという思いが一つにまとまりました。



貝口地区でも何かやりたいと仲間に提案した田中さん



かつての賑わいを振り返る国分さん

## 活動拠点について国分道夫さんに聞いてみました

この場所は、貝口地区の先祖が開いた畑だった場所で、私が若いころは、芋や麦、大豆など自分の家で食べるものを作っていました。正面の入江では、アワビやサザエなどが採れ、収入を得る貴重な場所でしたね。

特に春にはヒジキが育って、地区総出でヒジキを刈り取り、干して出荷していました。他の地域に向かう道路も通っていたし、地域の人たちが集まる場所だったんです。

# 貝口ビアパークとは？

決して、Beer(ビール)の  
のことではありません!!



プロジェクトの名前は、近くに“浜辺（ビーチ）”があり、そこで“農業（アグリ）”をしながら、誰でも気軽に寄りあえる“公園（パーク）”を作ることを目標に掲げ『貝口ビアパークプロジェクト』と命名しました。昨年3月には、10年間放置された畑の開墾作業をスタートさせ、7月には対州そばの種まき、10月には収穫して、12月のそば打ちまで精力的に活動を行いました。



かつての畑は、  
雑木林となっていた



対州そばの種まき



初めての耕うん機!

今年の活動をご紹介します



そば打ち体験



そばの刈り取り



道路沿いに設置する看板作り

## 活動を知ってもらい仲間を集める



貝口ビアパークの活動では、行政などの支援のほか、インターネットで支援を求める取り組みも行いました。支援者には金額に合わせた返礼品を送るなど、広く協力者を集め、支援の輪は島内だけにとどまらず、遠くは新潟など日本各地から寄付が集まりました。

### 寄付者の声

ビアパークの活動を知り、小さな地区でこのような活動をしていることに感動しました。皆さんの頑張る意欲を応援したいと寄付を決めました!



# プロジェクトがもたらした効果



活動を始めて1年がたち、貝口地区にはこのプロジェクトを通しての変化が!



大学生も参加しての作業

## 地域のコミュニティを再確認

開墾や畑仕事で汗を流す人や、参加者へのおもてなしをする人など、住民が様々な形でプロジェクトに関わりました。かつて地域で行っていた共同作業が復活したことで、地域のつながりを再確認することができ元気をとりもどしてきました。



美味しい食事でおもてなし



開墾作業に汗を流す

## 新たに生まれたつながり

南小学校の児童やその保護者、東京の大学生など、多くの人々が貝口地区を訪れ、作業を通じて人と人とのつながりが生まれました。



そば打ちに興味津々の子どもたち

## ビアパークのこれからを聞きました

昨年からはじめたこのプロジェクトに、地区内外からたくさんの方が参加してくれ、それによって人とのつながりがより深くなったことがとてもよかったと思います。

活動自体も、いい意味で欲が出てきて、これからあれもしたい、これもしようという思いにあふれています。畑では、育てる種類を増やしていきたいですし、目の前の海岸を整備したり、井戸を掘ったりして、子どもたちが海で遊べるようにしたいと思っています。

また、この活動が長く続けられるように、育てた作物を売って活動のための資金を確保していくことも考えています。これからたくさんの方が寄りあえる場所を作り、育てていきたいです。



これからの活動を語る梅野さん

自分たちの暮らす地域を、自らの手で元気にしたいと活動する貝口地区の皆さん。その活動には、地区の外から応援しようと、様々な方法で参加する人たちがいました。人口が減少している地域では、そこに住む人たちだけでは解決できない課題がたくさんあります。しかし、貝口地区のように、地域の魅力と強い思いを発信することで、解決の糸口をつかむことができるかもしれません。対馬に住む私たちが立ちあがり、いろいろな人を巻き込んで行動して、対馬を元気にしていきましょう!